
忙しい人のための異世界冒険物語～堕ちて行く貴方への鎮魂歌～

ザムディン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忙しい人のための異世界冒険物語〜堕ちて行く貴方への鎮魂歌〜

【Nコード】

N4013M

【作者名】

ザムディン

【あらすじ】

神宮アキラは人生に飽きた高校生だった。

そんな彼の元に現れた一匹の猫が、彼の4億年もの間受け継がれてきた宿命を呼び覚ますのだった…

宿命の戦い

俺は新宮アキラ。高校生だ！

ある日の昼休み、屋上で昼寝をしていた俺の目の前に、一匹の三毛猫が現れたんだ。

暫く猫を追いかけて回していると、なんとアイツは、柵を飛び越えて空に向かって思い切りジャンプしやがった！

しかも、地面があるみたいに着地しやがった。

俺はおそろおそろ猫のいる空の大地に足を踏み入れた。

そして猫を追いかけて空中を走り、気がつくと…

異世界に迷い込んでいた！！！！

でなんやかんやで異世界を救うことになり、色々な冒険の末、今魔王の城の最上階、扉の前にいるってわけさ。

ゼノンは重い扉に手を掛けた。
サウスマウンテンの戦いの時に手に入れた”光”の魔力を解放する。
正義の心を拒むかのように禍々しい気を放っていた扉が、光に屈するかの様にゆっくり、ゆっくりと低い音を立てながら奥へと開いく。

開き切った瞬間、ゼノン達は反射的に目を閉じた。

暗いところから急に明るいくところに行くと思が眩むが、その間逆の現象が起きた。

ゼノン達は、部屋の中から感じるあまりの闇の力に思わず目を閉じてしまったのだ。

「こっ…こいつはヤバいぜ…！」

後ろで親友ブチポックルが叫ぶ。

「くっ…まるで拳銃のような武器を向けられているような威圧感ね…！…！」

いつもは気丈なエリ阿斯が、震えるような声を出す。

「ようこそ…わが暗黒の空間へ…」

この世の者とは思えないような、恐ろしい声だった。
耳ではなく、脳に直接響く声だ。

「おまえが、魔王『カルマ』だな！」

「いかにも…私がデビルジェノサイダー達の主、カルマだ。」

ずっと探してきた男が目の前の空間にいる。

ゼノン達は冷や汗を流しながら、闇の中を見つめた。

煙のように漂う闇に覆われ、魔王の姿は見えなかったが、見えていればこんなに落ち着いてはいらなかっただろう。

「俺たちは、お前を倒すためにここに来たんだ。覚悟しろ！」

ゼノンが、恐怖を振り払おうとするかのように、闇に向かって大声で叫んだ。

暫くの沈黙の後、闇の中から足音が聞こえた。
こちらに向かって歩いてきている。

ゼノン達は身構え、それぞれ、闇に向かって武器を向けた。

足音が扉の前まで来て、止まった。
すぐ近くにいるはずなのに、姿は全く見えない。

ゼノン達は扉を囲むように扇形に陣を構えた。

「長い旅だったが、辛くは無かった。エリ阿斯、君があの日屋上にいた俺を迎えに来た日から、ずっとこの男を倒すことだけを考えてきたんだ。現実世界を究極次元消滅アルディメットカタストロフなんて、絶対にさせない！！！」
ゼノンが叫んだ。目にはうつすらと涙が浮かんでいる。

「わたしも、楽しい旅だったわ。ゼノン、あなたが私との契約を受けてくれて、本当に嬉しかった。暗い旅のはずなのに、みんなとい

るおかげで、すごく幸せだった。ゼノン、わたしはあなたのお嫁さんになるまで、ずっと一緒に戦うわ。たとえ…魔界最高指令官、カルマが相手でもね……！」

エリ阿斯も叫んだ。そして、ゼノンと少し目を合わせ、少し笑って見せた。

「へへっ！俺だってゼノンの男気に惚れてんだ！決着をつけるまで、お前を殺させたりしねえぜ……！」

ブチポツクルが勇ましく言った。

「わたしだって、母さんの仇をとるために、ここまで来たのよ！引いたりなんてしないわ……！」

フェルニヤンデが怒りをあらわにして言った。

「僕だって、戦えるんだ！ゼノンさんの足手まといになんてなりませんよ……！」

ペレンが言った。足が少し震えている。

「こいつに私の魔法・法撃が通用するかしら……」
天界妖精が不安げに言った。

「オデ・コイツ・タオス…ハカセノ…カタキ……！」
ゴメが言った。角の先から出てる蒸気は、カルマへの怒りの印だろう。

「フフ…僕がコイツを倒したら、エレフィーちゃんは振り向いてくれるかな…」

パパパ・ラッチが弱々しく言った。内なる恐怖を必死に抑えているようだ。

「俺の前で魔界の神を名乗るなんて、馬鹿な野郎だぜ！本物の神の力をみせてやるぜ！！！」

ハンブラビ・ホーテンが荒々しく叫んだ。

「キュピ！キュピピピピ！…」

ギンギーが全身の柔毛を逆立てて威嚇している。

「……………シャナキ！！」

三千院・ゲムが言った。ローブの奥で瞳が虹色に輝いている。

「うふふふ。魔界の神も大したことなさそうね。私が極楽浄土へ逝かせてアゲルわ。」

ヴァネッツト姉が言った。この人はだけはこんなときでも動じていない。

「愚かなる人間・獣人・妖精・機械人間ファクトリー・メン・神人達よ……」

空気が最高潮に張り詰めた。

「お前たちを……最上級の闇でもてなそう……」

一瞬だった。一瞬で闇の霧がはれ、いや、正確には魔王のコアに吸収され、部屋の中があらわになった。その瞬間、魔王カルマが吸収した闇を豪滅波動に変換し、放ってきた。

正面にいたゼノンとゴメは攻撃をかわし、ゼノンはそのままカルマに斬りかかった。

4億440年もの長い宿命を背負った戦いが、今始まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4013m/>

忙しい人のための異世界冒険物語～堕ちて行く貴方への鎮魂歌～

2010年10月15日19時02分発行